

録を詳しく集めてきた。それによると、分布は大体水系によってまとまっている。すなわち、東から津田川、鴨部川、新川、春日川、土器川、金倉川、弘田川、財田川、柞田川の各水系に限られている。そして現段階では一応これで落付いた形になっており、新しい水系に属する産地は今のところ発見されていない。

これに対して、オオカナダモ(14図)は、水系としてまとめられるのは春日川だけで、その他の産地は点々としている。この点々とした分布は、熱帯魚等の水槽からの逸出が考えられる。オオカナダモの分布拡大は、コカナダモほど著しくない様であるが、今後どうなっていくのか注目したい。

#### 7. その他

イバラモ・トリゲモの類は、同定が困難である上、本県では過去の記録が絶無に近いところから、資料不足ではっきりとした実態がつかみきれず、分布型の検討は差しひかえた。現在本県では、ムサシモ、ホッソモ、オオトリゲモ、トリゲモ、ヒロハトリゲモ、イトトリゲモ、イバラモの7種が確認されている。この内から、比較的数の多い次のものを分布図として示した。ヒロハトリゲモ(15図)は、水田で良く見かけるが、実際はもっと多く生育していると思われる。トリゲモとオオトリゲ

モは、同定上の問題から、トリゲモ類として両種を合わせた分布図(15図)とした。

ミジンコウキクサ(16図)の場合、分布型を特定できなかった。生育地は、ため池を始め、河川、水溝、水田だけでなく、水たまりの様な所にも繁殖し、野つぼや果樹園の灌漑用水槽でもしばしばお目にかかっている。産地にはあまり統一性がないが、人の生活圏から大きくそれることはないようだ。

#### おわりに

今回、香川植物の会で行った水草分布調査の一事例を報告した。調査に当たった会員の中には、すっかり水草のとりこになり、ため池廻りを始めた者や、何げなく持ち寄られた水草が県下初見のものであったりと、多くの話題をもたらせている。また、メッシュ図の空白の意味について、生育していないのか未調査の由かがはっきりしないとの問題提起もある。調査は、まだ中間段階であり、今後とも引続いて行われる予定である。御意見、御感想をいただければ幸である。

末筆ながら、本調査を動機づけ、いろいろと御指導下さっている大滝末男水草研究会会長と、不明種の同定を快くお引き受け下さった神戸大学角野康郎先生に、厚く御礼申し上げます。

## ジュンサイのオレンジカードが発売

松田仁松\*

カードばやりの時代になったが、このたびJR市川駅旅行センターから、ジュンサイの花(撮影者は会員の押越守)をあしらった千円券が、さる5月15日に発売されたので紹介する。

私は会報23号で、『蓴菜池にジュンサイが育つまで』というテーマで発表しているので、ご存じの人も多いと思うが、大滝会長のご指導で、市川市の蓴菜池にジュンサイが復元してから数年になる。

ジュンサイは全国的に昔から分布する水草で、高級な食品としても珍重されているが、近年は除草剤や水質汚濁の悪化で激減しつつあり、関東地方では市川の蓴菜池のジュンサイが一躍注目され、有名になりつつある。前記旅行センターの係から、3年ほど前より、私は相談を



受けていたのが、今回実現したものである。

水草類で、ムジナモやオニバスのテレホンカードの存在は知られているが、ジュンサイのオレンジカードは多分最初であると思うので、あえて発表するしだいである。

(\*蓴菜池にジュンサイを残そう市民の会会長)